

様似町

須貝 佳苗

1. 地名の由来

様似町名の由来はアイヌ語の「サンマウニ」（朽ち木のある所の意）から出たものと言われている。

2. 歴史

1635 年に海辺川の支流で採金が行われ、繁華な集落が形成される。そして、1802 年に蝦夷奉公の管下となり、これを開基とする。以来、水産業を中心として発展し、1885 年頃からは定着農業も始まる。また、1906 年二級町村制施行により、八箇ヶ所を大字として様似村が誕生。1952 年には開基 50 年の年に町制を施行した。

図 1 様似町地図



3. 地理・気候

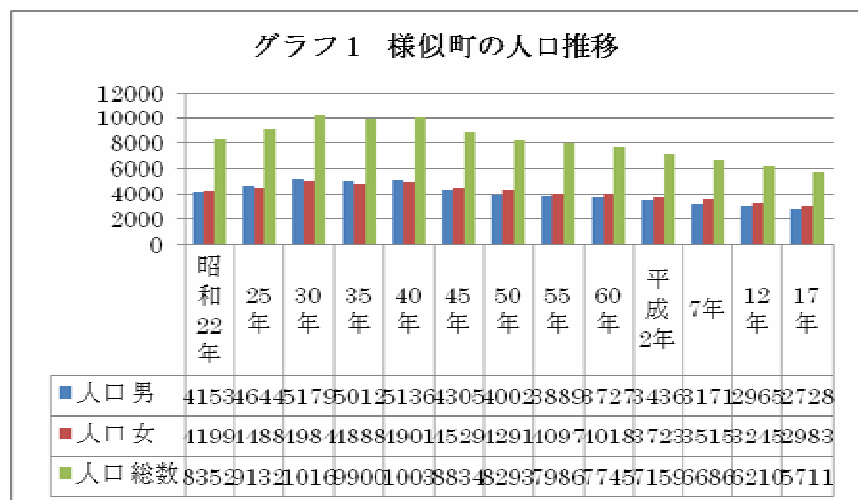
位置は北緯 42 度、東経 142 度で、面積は 364.33 km² である。様似町は背面に日高山脈、前面には太平洋に臨み、様似町、海辺川の流域地帯を除く地域はほとんどが丘陵地帯であって、両河川の下流部に市街地が、太平洋側に集落が形成されている。北海道東南部に位置し、太平洋に面しているため、海洋性気候となっており、夏は涼しく、冬は雪が少なく、北海道内でも温暖な地域となっている。

4. 人口推移

出典：Wikipedia

本町の人口が最も多かった昭和 30 年国勢調査時の 10,163 人をピークに年々減少している。特に減少率は昭和 60 年以降、6～7%という高い状況が続いている。この人口の減少については、基幹産業である第 1 次産業の低迷や長引く不況など

グラフ 1 様似町の人口推移



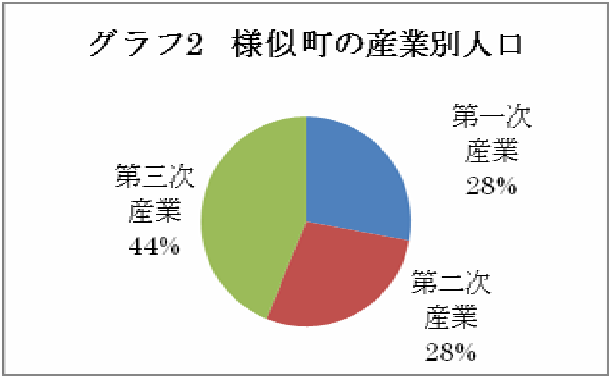
出典：様似町 HP

により町内での就業の場が少ないため、学卒者をはじめとした人口の都市への流出が続いていること、少子化による幼年人口の大幅な減少が主な原因となっている。

5. 産業

5.1 産業別人口

グラフを見てみると、サービス業や商業などの第三次産業が最も多い割合を占めている。そして、農業や水産業などの第一次産業が最も少ない割合である。これは、農家の後継者不足や生産量の減少などから、第一次産業をやめていく人が多く、自然をいかしたキャンプ場などのサービス業が増えていったことによると考えられる。

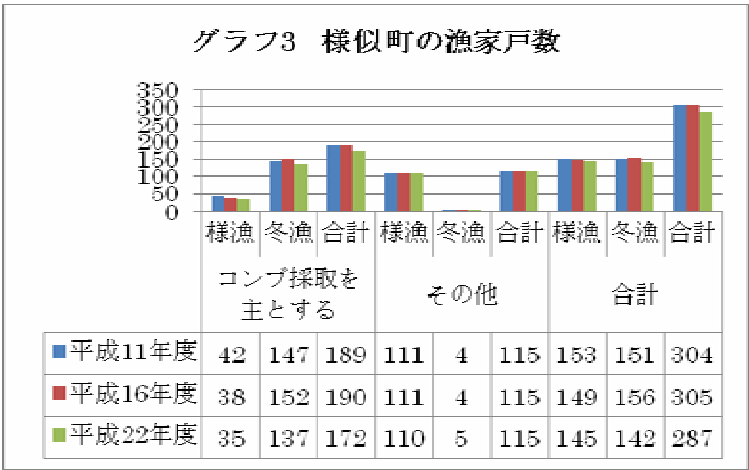


出典：様似町 HP

5.2 漁業

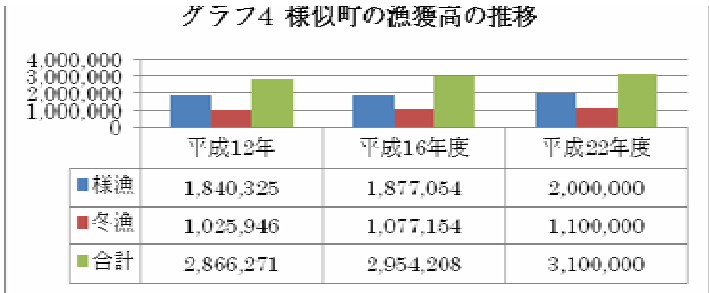
本格的な 200 海里体制への移行により、周辺水域の重要性が増しつつも、水産資源の減少から漁業生産量も著しく減少している。このような中、水産基本法の制定に伴い、従来の TAC 制度（漁獲量の総量管理）に加え、「漁獲努力可能量制度（TAE 制度）」（操業日数等の漁ろう作業量の総量管理）が創設され、操業水域での資源回復の計画的・総合的な推進が図られている。

また、水産物の輸入は、依然として増加傾向にあり、加えて国内の景気の低迷、デフ



* 冬漁→冬島漁協、様漁→様似漁協

出典：様似町 HP



出典：様似町 HP

レ傾向などにより多くの水産物の価格が低迷を続ける中、活魚出荷や消費者の「安全・健康志向」に伴う輸入水産物との差別化やサケ（銀聖）のブランド化、通信販売などによる

生産低迷からの脱却が進められている。

本町の漁獲量の推移（属地）を見ると、平成 10 年と平成 15 年の比較では、漁獲 3,107t の増（30%増）、漁獲高では 4 千 2 百万円の減（2.4%減）になっている。漁獲量が増加した要因は、サケ定置網漁が好調だったためだが、他の主要魚種であるタコやツブ貝、そしてコンブが減産となっている。また、経営体数も減少傾向にあり、採藻漁業やサケマス流し網漁業など 23 経営体が減少しているが、これらは水産業への若年層の就業者数が極めて低水準にとどまり、高齢化が進行し、後継者がいないことによる廃業が大きな要因であり、今後労働力不足による生産の低下が危惧されている。

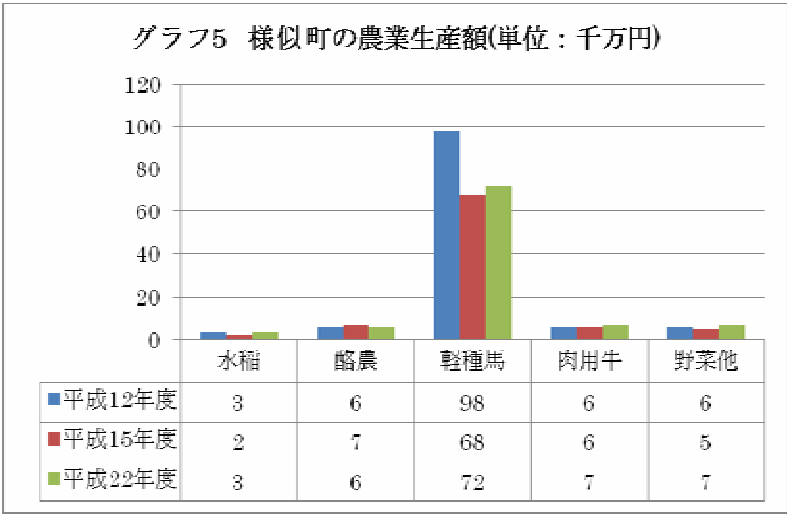
漁業協同組合の合併については、様似漁業協同組合が浦河町の浦河及び荻伏漁業協同組合と合併し「日高中央漁業協同組合」として、冬島漁業協同組合は、えりも町の庶野及びえりも町漁業協同組合と合併し「えりも漁業協同組合」を設立し、平成 18 年度からは、それぞれの支所としてスタートした。

さけ・ます増殖事業については、生産者をはじめ関係機関にて各々進めてきた増殖事業を「日高管内さけ・ます増殖事業協会」が総括的に実施することとして平成 11 年に組織統合され、種苗生産などが着実に進められている。

5.3 農業

5.3.1 水稻

稲作経営は、様似川流域の平坦地を中心に作付けされ、昭和 43 年の 184ha、84 戸がピークで、減反政策が進められた昭和 45 年には 117ha、現在はピーク時の 15%程度の 26ha、11 戸の作付けに減少し、その大半は家畜の飼料用牧草地に転換利用されている。また、粗生産額もピーク時の 164,000 千円から現在は 20,000 千円程度に減少している。



出典：様似町 HP

5.3.2 野菜

いちごを中心とした施設栽培が本格化したのは、平成 2 年の 16 戸がはじまりで、現在は 12 戸の農家に取り組んでいる。いちごは広域出荷体制により、ほとんどが札幌市場へ出荷しているが、粗生産額は平成 7 年の 77,000 千円をピークに減少傾向にある。

5.3.3 飼料作物

昭和 45 年の減反政策と相まって飼料作物の作付面積は急激に増加し、本町の耕作面積の 90% 以上を占めていることから、畜産業と連携し安定的な発展を期すため、大家畜の飼養動向に即した良質且つ低コストの粗飼料を安定的に供給し、自給率の向上に努めている。

表 2 様似町の農家戸数・農業就業者数・農用地面積等

区分	平成 12 年度	平成 22 年度	平成 16 年度
農 家 戸 数	146 戸	110 戸	-
農 家 人 口	519 人	400 人	-
農業就業者	318 人	240 人	-
耕 地 面 積	1,080ha	1,040ha	1,040ha
水 稻	30ha	25ha	26ha
普 通 畑	52ha	40ha	38ha
牧 草 畑	998ha	975ha	976ha

出典：様似町 HP

5.3.4 軽種馬

馬産地としての歴史は浅く、昭和 30 年に軽種馬生産がはじまり 36 年までは 1 牧場でしたが、水稻減反政策と相まって急激に繁栄した。しかし、そのほとんどが水田や酪農との複合経営からの移行で企業の経営者が少ないのが特徴である。現在は 39 牧場 510 頭の飼養であり、農業総生産額の 80% 程度を占めている。こうした軽種馬生産は、稲作とともに基幹作目として、経済の発展に重要な役割を果たしてきたが、近年、経済情勢の悪化に伴い競走馬の流通不振及び外国産馬の出走制限緩和策など厳しい時代を迎えている。

5.3.5 肉用牛

肉用牛生産は、これまで乳用牝牛を主体とした複合経営であったが、昭和 61 年より新富地区の再開発に伴う大規模化により肉用種が導入され、自然放牧を主体とした特徴ある牛肉生産を繁殖から肥育までの一貫生産体制のもと進められている。

5.4 林業

本町の総面積 36,433ha のうち 33,378ha (91.6%) を森林が占めており、所有形態別に

表 1 様似町の森林の内訳

区分	立　木　地						無立木 地その 他	森林面 積　計	人工林 率 (%)
	人工林		天然林		計				
	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積			
道有林	1655	208	18351	2276	20006	2484	569	20575	8
町有林	1159	237	2325	393	3484	630	15	3499	33.1
私有林	2134	381	6937	851	9071	1232	233	9304	22.9
総数	4948	826	27613	3520	32561	4346	817	33378	14.8

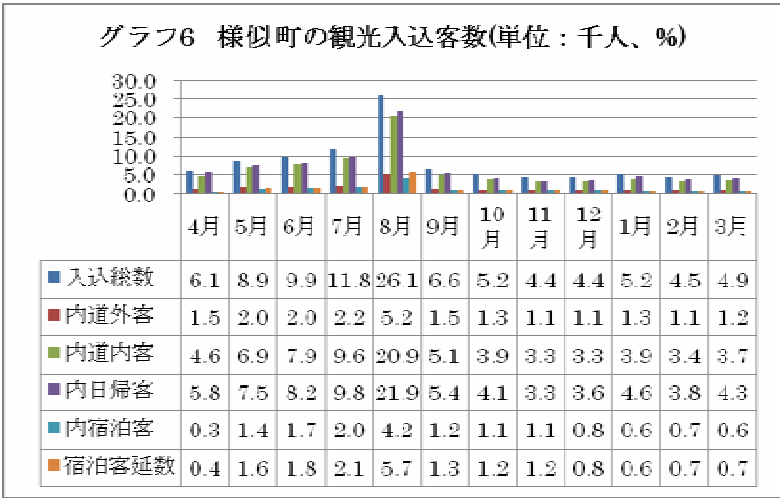
出典：様似町 HP

見ると道有林が 20,575ha(61.6%)、一般民有林が 12,803ha(38.4%)うち私有林 9,304ha (27.9%)、町有林 3,499ha (10.5%))となっている。(平成 16 年度末現在)一般民有林の人工林面積は 3,293ha で人工林率 25.7%となっており、林齢構成でみる 35 年生以下の若い林分で占められているため、保育除間伐事業を積極的に推進する必要があるため、森林・林業関連施策の積極的な導入により、平成 7 年度からは流域森林総合整備事業の指定を受け、造林、幼齢林の保育及び除間伐事業と粗悪林、無立木地の林種を転換している。

7. 観光

7.1 観光入込客数

年間合計は、入込客数が 98.0、内道外客が 21.5、内道内客が 76.5、内日帰客が 82.3 内宿泊客が 15.1 という結果になった。年間を通して見ても、道内の観光客が多いことが分かる。そして、宿泊客よりも日帰り客のほうが多いことをみると、様



出典：様似町 HP

似町は観光の面ではあまり、発展していないとみられる。観光客が夏に多いのは、海にも山にも面していることから、夏の間、7 月、8 月の時期に観光に来る人が増えるということであろう。

画像 1 親子岩



出典：様似町 HP

画像 2 アポイ岳



出典：様似町 HP

7.2 観光名所

様似町は、日本一の高山植物の宝庫・アポイ岳を擁する、大自然に恵まれた町である。海も山もあるため、景色を楽しむことはもちろん、キャンプなどもすることもでき、自然を感じられるところである。

様似八景

様似町には「様似八景」と呼ばれる風景がある。これは、故郷の美しい風景を守り、PR していこうと町民の方から公募して選ばれた八つの風景のことである。「親子岩」と呼ばれる大小 3 つの岩や、アポイ岳が作る美しい風景を見ることができる。

親子岩ふれ愛ビーチキャンプ場

親子岩を望み、国道 336 号線をドライブする人たちの心を和ませる絶景ポイントにあるキャンプ場。施設も充実していて、海水浴はもちろん、釣り防波堤、遊具施設など、家族連れで楽しめるものとなっている。

画像 3 キャンプ場の様子



出典：様似町 HP

画像 4 キャンプ場の様子



出典：様似町 HP

8．参照ホームページ

様似町 HP：<http://www.hokkai.or.jp/samani/>

北海道庁 HP：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

統計局 HP：<http://www.stat.go.jp/>

観光庁 HP：<http://www.mlit.go.jp/kankocho/>